

## 郷土館発

「絶滅が心配な野生動物」を  
郷土館で確かめてみませんか

基本的には、野生動物が住みやすい環境は、人間にとっても住みやすい環境であり、動物が住みにくくなるといって環境は、人間にとっても住みにくくなるといって環境なのでしょう。

愛知県では、絶滅のおそれのある県内の野生動物植物のリストを作り、「レッドデータブックあいち」としてまとめ、平成十三年に植物編、十四年には動物編を発刊しました。

「レッドデータブックあいち」の願いは、「たくさんの動物を育む青い星、地球。その動物たちには、いつの間にか黄信号、さらには、赤信号が灯されています。彼等の前途を再び青へ。」です。

レッドデータブックに記載されている動物を調べてみると、郷土館で六〇種展示していることがわかりました。

昆虫類(二〇) 鳥類(一八)

哺乳類(一一) は虫類(三)

両生類(三) 貝類(一)

淡水魚類(四)

昆虫類の中には、絶滅種で、近年発見の記録が全くないオオ

ウラギンヒヨウモンが展示されています。

鳥類では、水に潜って歩いたり泳いだりするカワガラス、とても小さな鳥のミソサザイ、県の鳥のコノハズク、宮沢賢治作「よたかの星」の主人公のヨタカ等も展示されています。

これら六〇種の動物の見学の手引書を用意しました。絶滅が心配される野生動物を郷土館で確かめてみませんか。

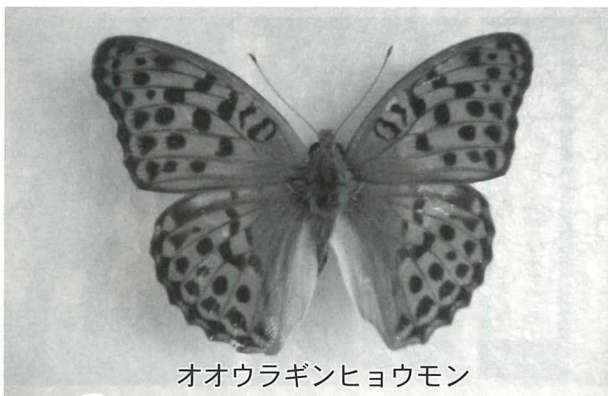
そして、野生動物にも人間にも住みよい環境を考えてみましょう。

(奥三河郷土館 加藤紘市)



カワガラス

ミソサザイ



オオウラギンヒヨウモン



ヨタカ

コノハズク